

曾於市 Soo CITY 話題の広場 Topics

財部南校区公民館「ふるさと学寮」が行われました



6月16日から18日にかけて、財部南地区公民館でふるさと学寮が行われ、小学3年生以上の児童14名と中学生10名の計24名が参加しました。ふるさと学寮は、児童・生徒が家庭を離れ、異年齢集団で協力して生活する中で、自立性や忍耐力、思いやりの心を養い、家族や校区の方々に感謝の心を持たせることを目的としています。

子ども達は地区公民館に寝泊まりし、そこから学校に通い、朝夕の食事グループごとに協力して作りました。宿題にも自主的に取り組み、下級生が分からないところを上級生が丁寧に教えている姿も見られました。また、最近では見かけることが少なくなった五右衛門風呂に大喜びしたり、二槽式洗濯機を使つての洗濯に戸惑ったりと、子ども達は貴重な経験をしました。

2泊3日の宿泊体験を終えた子ども達には、仲間を思いやる気持ちと我慢する心も育ち、自信と充実感があふれていました。

名古屋市から大手企業が食材調達の見学



市長室で説明・意見交換の様子

6月26日、名古屋市から愛知県議会議員、大手企業の代表取締役等が東海・関東を中心に展開している飲食店で使う食材探しに曾於市へ来られました。

曾於市と曾於市観光特産開発センターは、千載一遇のチャンスとばかり、池田市長以下懇切丁寧に対応しました。最初は道の駅すえよしで野菜・肉類・加工品等を見学して頂き、続いて市長室で曾於市の農畜産物の生産状況等の説明、及びナンチュク・大成畜産・メセナ食彩・サンノ一食品さんからそれぞれ商品等の説明を行いました。

この後、黒毛和牛と黒豚のしゃぶしゃぶを試食して頂き、JAの肥育センターと日本有機を訪れ各PR等を行いました。これを契機に曾於市の農畜産物・加工品の販路拡大が進めば、曾於市がもっと元気になることでしょう。

おコメを栽培して被災地に送り隊＝プロジェクト日本＝



東日本大震災で被災された方々を支援しようと、農業を使わない自然栽培で田んぼをつくり、被災地の石巻保育所にお米を送るプロジェクトが大隅町恒吉にある馬庭竜也さんの田んぼで始まりました。

一反歩の田んぼで「奇跡のお米」の由来を持つイセヒカリを栽培するための準備を進め、6月24日に田植えを迎えました。田植え当日の参加者は、11名でしたが、田植え体験が初めての参加者のために手植えのゾーンを作り、「手植え」の作業も体験しました。当日は、梅雨空もなく猛暑の日でしたが、熱中症にもかからず無事に田植えを終えることができました。

このプロジェクトのきっかけとなったのは、震災から一ヶ月経った頃に、宮城県石巻市に高校生の息子と震災ボランティアに参加した川畑昭浩さん（都城市）らの「被災地のために何かこの地でできることをしたい。」との思いからで、馬庭さんの職場の仲間である川畑さんを筆頭に21名が賛同して活動しています。このプロジェクトの取り組みの経過は、次のホームページで閲覧できますのでアクセスしてみてください。TEL:090-1924-1562

HP <http://blog.ap.teacup.com/sienmai/>

交通事故多発地点特別対策合同現場診断が実施されました



6月21日、曾於警察署主催で、曾於警察署管内交通事故多発地点特別対策合同現場診断が実施されました。

当日は、財部中央公民館前交差点で、警察署、県関係機関、曾於地区安全運転管理協議会、曾於地区交通安全協会、市役所関係機関、末吉高等自動車学校、地元関係者等による現場診断を実施しました。その後の検討会では、交通事故をなくすため、さまざまな改善案が出されました。事故多発地点の改善も必要ですが、通行する側も普段から事故防止を心がけ、交通安全には十分注意してください。

法務省人権擁護局長・全国人権擁護委員連合会長賞表彰

法務省人権擁護局長表彰 全国人権擁護委員連合会長表彰



大窪義孝さん



山内千代子さん

6月17日、鹿児島県人権擁護委員連合会総会の席上で、これまでの人権擁護委員としての活動・功績に対して、大窪義孝さんは「法務省人権擁護局長」から、山之内千代子さんは「全国人権擁護委員連合会長」から、それぞれ表彰を受けられました。

人権擁護委員を10年目の大窪さんと9年目の山内さんは、地域住民の人望も厚く、永年の経験で人権相談をはじめ人権思想・擁護運動に関する啓発など各種人権啓発活動に対する功労が認められたものです。今後お二人の益々のご活躍をお祈り致します。

社会を明るくする運動 強調月間



7月1日、市役所で市内の保護司と更正保護女性部の方々30名が集まり「社会を明るくする運動」メッセージ伝達と出発式がありました。

社会を明るくする運動はすべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動で今年で61回目を迎えています。

当日は、法務大臣や県知事のメッセージを伝達した後、山中ミチ子会長挨拶や市長の激励の挨拶がありました。

その後、保護司の方々はそれぞれ3町に分かれ、市内の学校訪問を行い運動への理解と協力をお願いしました。

青少年市民会議講演会



6月28日、末吉総合センターで青少年市民会議総会及び講演会が開催されました。市民会議は、次代を担う青少年を健全に育成させるためには、全ての団体が手を携え市民一丸となって見守っていく事が必要だという趣旨で組織されているものです。

総会では、携帯電話フィルタリング設定推進や挨拶運動、市内一斉清掃の取組みが審議され、満場一致で可決されました。

総会後、みやざき中央新聞編集長の水谷謹人^{もりひと}さんによる「子どもたちの夢ある未来の為に」と題した講演会があり、歌謡曲の歌詞になぞられた例えで「子供達は、花屋の店先に並んだ選ばれた花(スマップの歌)ではなく、ここにしか、この家族の中でしか咲かない大切な花(こぶくろの歌)であって欲しい。」という、とても含蓄もあり、心温まるようなお話に約300名の会場は皆一様に共感し、満足そうな顔をされていたのがとても印象的でした。

春の叙勲に 平澤津孝志さんと桂次雄さん



4月29日に発表された春の叙勲に、曾於市内からお二人の方が受章されました。

写真左池田市長のとなりは、末吉町平澤津にお住いの平澤津孝志さんで、昭和58年に末吉町議会議員に初当選以来25年以上に亘り、末吉町議会議長や農業委員会会長などを歴任され曾於市議会議員を退任されるまで、地域の為に情熱を注がれた事を評価されての旭日双光章の受章です。右写真は、大隅町中之内にお住いの桂次雄さんですが、大隅町長や曾於市議会議員を歴任され、特に国の合同庁舎誘致を実現された事を評価されての旭日小綬章です。お二人とも旧町のみならず曾於市発展の為に多大なるご尽力を頂きました。お二人に話を聞きますと「この名誉ある章は、地域の皆様のお陰で頂いたものであり、今後も地域発展の為に微力ながら力を尽くします」と笑顔で話されていました。

藤本みかさん 夢を追い続けて



6月21日、大隅北小学校体育館に元オリンピック選手の藤本美加（旧姓山内）さんが訪問し、大隅北小と菅牟田小の児童に講演と実技指導を行いました。

講演の中で、「私は、当時誰もできなかったバックアタックを何度も何度も練習して完成させることができました。それは、私の努力だけでなく沢山の人の支えがあり、夢を追い続けることができたからです。君たちも夢は変わっていくとは思いますが、その時々で常に全力で夢に向かって挑戦してください。」とおっしゃっていました。

実技指導の中では、低学年と高学年に分かれ指導されましたが、楽しみながらも基本の大切さを十分理解するようにと声掛けをしていらっしゃいました。

子供たちの中に努力することの素晴らしさを感じさせる良い機会になったのではないのでしょうか。

益々元気に 吉ヶ谷むらづくり



6月18日、吉ヶ谷むらづくり委員会の方々が、地域内の遊休農地を利用した田植えを行いました。

この田植え作業は、自治会の活性化や活動資金の捻出等の目的で行われているもので今年で6年目になります。

地域では、グランドゴルフ大会や32回目の夏祭り、敬老会、大隅大川原駅発電車の旅の企画など、この遊休農地活用で得た売上げで、沢山の楽しい行事を行っています。

田植え当日は、女性部による手料理で、大いに盛り上がり、地域の団結力をあらためて確認されたようです。

会員にお話を聞くと「秋のもち米の収穫がとても楽しみです。この活動は、ずっと続けていきたいものです。」と元気な声でお話されていました。

厚生労働大臣特別表彰を受賞



6月17日、市長室で厚生労働大臣特別表彰を受賞された民生委員の皆さんに社会福祉協議会の原田会長も同席され、表彰伝達式が行われました。

この表彰は、15年から27年以上もの長きにわたる民生委員活動に対し、厚生労働大臣から特別表彰が贈られるものです。

今回は、写真左から山元勉さん、新川譲さん、青山フサさん、山下優さん、黒木庄三郎さん、池袋和子さんの計6人の方が受賞され、池田市長から表彰状が伝達されました。

市長は「社会福祉の充実のためにこれまでご尽力いただき誠にありがとうございます。今後も地域のよき相談役としてご協力ください」と挨拶しました。

ボランティア作業で地域に貢献



6月24日、財部の建設同志会の皆さんが「八ヶ代川・横市川河川クリーン作戦」と「土地改良施設愛護活動」を行いました。

この作業は、6月の河川愛護運動の一環と、本格的な観光シーズンを前に毎年行われているもので、今回で14回目の開催。当日は、建設同志会の会員や県、市の職員など約100人が参加して作業が行われました。

作業は八ヶ代橋付近や温泉センター前、いきいき親水公園に分かれて、持ち寄った重機や草刈り機などで手際よく作業が行われると、作業終了後は、美しい景観がよみがえっていました。

会長の上集孝一さんは「昨年からいろいろな出来事で日本全国元気がなくなっていますが、私たちに今出来る事は、地域の環境をよくする事だと思います。けがをせずに一生懸命頑張りましょう。」と話されました。

麴米「亀の尾」がつなぐ絆



6月22日、財部町中谷地区の「びっきよの会」では、山形県から届いた種もみで育てた苗の田植えを行いました。

植えられた苗は、昨年7月の豪雨災害で水田が埋没し、栽培していた麴米「亀の尾」が全滅してしまった事を知った山形県庄内町の酒飯店主が奔走し集めて贈ってくれた種もみから育てたものです。

同会の鬼丸久雄会長に話を聞くと、「震災の影響がある中で贈っていただいた貴重な種もみなので、種まきが出来た喜びで記念写真を撮りました。「亀の尾」を大切に育てて、9月にはお礼と成長の報告のために山形県を訪問します。」と、嬉しそうに話していました。

雨にも負けず

田植えをしました。



6月10日、末吉小学校5年生の児童が高松にある学校田で、田植えを行いました。

これは、水土里サークル活動（高松地域活動隊）と総合的な学習の時間の一環として、取り組んだ授業で、日ごろから給食で食べているお米と同じ品種の「あきほなみ」を植えました。

当日は、強い雨や雷が鳴るあいにくの天候でしたが、中断しながらなんとか昔ながらの手植えで植えました。

5年生の湊上綾乃さんに話を聞くと「沢山のおじさん達がやさしく教えてくれて、とても楽しかったです。秋のおにぎりパーティでみんなで作ったお米を食べるのが楽しみです」と笑顔で話してくれました。